

2015年度 商社の環境保全活動

日本貿易会法人正会員は、社会貢献活動や国民運動につながる啓発活動の一環として環境保全活動に対して積極的に取り組んでいる。今回は、各社の環境保全活動、環境問題への理解促進に向けた活動、そして事業活動を通じた環境貢献について紹介する。

1. 地域における環境保全活動

岡谷鋼機

名古屋本店および大阪店周辺の清掃活動

岡谷鋼機では、地域貢献の一環として月1回、始業前30分、名古屋本店および大阪店周辺の清掃活動を社員有志で実施している。歩道、植込み、排水溝のごみを拾い、清掃活動を通じて地域の方々と触れ合う良い機会となっている。今後も清掃活動を通じ、地域の環境美化の手伝いを続けていく。

グループ社員20人が参加し、日比谷公園・飯野ビルディング周辺の清掃活動を行った。本活動は、同じビルに入居する企業と共同で活動することで、地域貢献の度合いを高め、また他社員同士の交流をきっかけに、社員の社会貢献活動への積極的な参加を促すことを目的としている。活動後、参加者からは「ランチタイムなので、気軽に参加できることがよい」との声が多かった。

双日 ランチタイム清掃ボランティア

2016年2月19日のランチタイムに、双日

豊田通商 九十九里浜海岸林再生プロジェクト

千葉県とNPO法人森のライフスタイル研究所が協定し取り組んでいる東日本大震災の



ランチタイム清掃ボランティア 参加者（双日提供）



伐採 (2015年10月25日)



植樹 (2016年2月28日)

九十九里浜海岸林再生プロジェクト (豊田通商提供)

津波で被災した千葉県九十九里浜にクロマツの苗を植樹する海岸林再生プロジェクトに、環境保全および東日本大震災復興支援の一環として2015年度から参画。2015年10月25日、2016年2月28日の2日間で豊田通商グループ社員とその家族約100人が参加した。10月は古損木の伐採および地ごしらえを実施し、翌年2月には地ごしらえした場所に3,000本のクロマツの苗木を植樹した。参加者からの満

足度は高く、「九十九里浜も被災したことを初めて知った」「長期的視野で本PJを支援していきたい」等、今後につなげていけるコメントを多数もらうことができた。

長瀬産業 浜離宮菰 (こも) 外し

2016年2月27日、中央ぶらねっと (中央区社会貢献企業連絡会) 主催の「浜離宮菰外し活動」へ社員5人が参加した。菰外し



浜離宮菰外し 参加者 (長瀬産業提供)

とは、立冬の頃に樹木に巻いていたわらを、虫が動き出す啓蟄^{けいちつ}の頃に取り外し、中に入っていた害虫を駆除する作業のことであり、浜離宮菰外しは、中央ぷらねっとの恒例行事である。当日は、3チームに分かれ、庭園職員の方の指導の下、庭園内全ての菰を約1時間かけて取り外した。参加者からは、「参加してよかった。また参加したい」といった感想が寄せられ、特に子連れの参加者からは、「親子で貴重な体験となり、子どもにとっても菰の役割が分かり、いい勉強になった」と好評であった。

日立ハイテクノロジーズ

「日立ハイテクやさとの森」育林活動

2015年11月28日、地球温暖化防止への貢献を目的とした「日立ハイテクやさとの森」育林活動に社員有志とその家族39人が参加した。茨城森林管理署と芳賀地区森林組合の協力の下、樹木の余分な枝をのこぎりで切り落とす「枝打ち」を実施。余分な枝を切り落とすことで、節がなく丈夫な木材に育てることができる。

昼食の後は、同署の森林ふれあい係の方に



「日立ハイテクやさとの森」育林活動 参加者
(日立ハイテクノロジーズ提供)

よる環境保全についての講義・環境クイズを通じ、森林保全の大切さについて理解を深めた。当日は天候に恵まれ、参加者一同いい汗をかき、環境保全活動を体験することができた。

植樹した木は10年を経過し、樹木の高さは8m程度に成長している。来年度以降も育林作業を継続的に実施していく。

阪和興業 大阪本社ビル周辺の清掃活動

大阪本社では毎年、春と秋に本社ビル周辺の清掃活動を行っている。2015年秋は、10月22日に大阪市恒例の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」へ参加する形での実施となった。当日は46人の社員が参加し、朝8時より約20分間で「HK 淀屋橋ガーデンアベニュー」を中心に清掃を行った。この時期は他社も多く清掃活動を行っているのが比較的きれいになっているが、それでも1.38kgのごみが回収された。毎年のものであるが吸い殻はまだ多い。みんなが協力して大阪市をきれいに保つことで、マラソンランナーの方が気持ちよく走れ、また歩道で観戦される方にも大阪市はきれいであると、良い印象を持っていただくことを期待する。



大阪本社周辺清掃活動 (阪和興業提供)



参加者

第7回富士山清掃活動（丸紅提供）



清掃活動風景

丸紅 丸紅 第7回富士山清掃活動

丸紅は2009年から毎年、NPO法人「富士山クラブ」の指導の下、富士山の清掃活動を実施している。第7回となる2015年は、丸紅グループ社員とその家族・友人など約100人が、9月5日に清掃活動を実施し、回収したごみの総重量は950kgになった。自然環境保護の問題は一朝一夕に解決するものではないが、丸紅では今後もグループ全体として、この問題に継続的に取り組んでいく予定。また、このプログラムは国際交流も目的としており、留学生支援企業協力推進協会を通じて呼び掛けを行ったところ、2015年もベトナム・中国・イランからの留学生が参加した。参加者からは、「思っていた以上に大変な作業だったが、すがすがしい気持ちになった」等の感想があった。

メタルワン 広島県立もみのき森林公園

環境ボランティア（森林整備）

2015年10月4日、広島県立もみのき森林公園で開催された森林整備の環境ボランティアにメタルワン西日本、ならびに関連グループ会社の職員やその家族63人が参加した。専門家の指導の下、基本的な道具の安全な使用法を学び、森林の除伐や間伐といった森林整備、林業体験を通じて環境保全活動を行った。本活動を通じて、地域の美化のみならず環境保全について考える機会をグループ全体で共有できたことは非常に意義があった。今後もメタルワングループとして社会貢献活動の輪を広げていくとともに、このような活動を通じ、社員のみならず、その家族も含めて環境保全の重要性を意識してもらうことが大事であると考えている。



参加者

環境ボランティア（メタルワン提供）



作業風景



森林保全活動 参加者



熱帯林再生プロジェクト (マレーシア)

森林保全活動 (三菱商事提供)

三菱商事 三菱商事千年の森 (彌太郎の森)

第7回森林保全活動

三菱商事では、2009年2月に高知県、安芸市、高知東部森林組合と四者協働の「森林保全パートナーズ協定」を締結後、三菱グループの創業者岩崎彌太郎の故郷である高知県安芸市において、毎年森林保全活動を継続している。2015年は、10月24日、25日に開催し、三菱商事および三菱商事グループ企業の社員とその家族、韓国三菱、総勢55名のボランティアが参加した。24日朝に星神社(妙見山)を参拝後、森林組合の指導の下、2015年植樹したところの肥料まきや間伐・受光作業を行い、翌日は岩崎彌太郎ゆかりの地などを訪問した。

この他、三菱商事は、マレーシア、ブラジル、ケニア、インドネシアで熱帯林の再生実験プロジェクトを行うなど、世界各地で環境問題に取り組んでいる。

2. 環境問題への理解促進

伊藤忠商事 子どもたちのための夏休み環境教室

「夏休み環境教室」は、近隣や社員の子女を対象に、子どもたちへの環境教育のイベン

トとして1992年から開催している。2015年7月29日は、92人の小学生が参加した。

今回は「雲のスペシャリスト」の異名を持つ気象予報士の浅川かがり氏を招き、「お天気パワーで地球を救おう!」というテーマで、雲や竜巻を人工的に作る実験やソーラーカー工作を行った。参加者からは、「難しかったけれど、楽しかった」「ソーラーカーは完成しなかったけれど、親に手伝ってもらわず完成したい」等の感想があり、最近の異常気象や地球温暖化問題、自然エネルギーなどについて楽しく学ぶ機会となった。



子どもたちのための夏休み環境教室(伊藤忠商事提供)



ごみ処理施設の現場視察 工場風景（伊藤忠丸紅鉄鋼提供）

伊藤忠丸紅鉄鋼 ごみ処理施設の現場視察

伊藤忠丸紅鉄鋼では、2009年から毎年6月を「MISI環境月間」と定め、期間中、地域清掃や講演会等のさまざまな取り組みを行っている。その一環として2015年6月11日、25日に、自分たちが東京本社で排出したごみがどこに運ばれ、どんな処理がされているのかを、実際に現場訪問して学ぶツアーを実施した。

回収されたごみは、東京都足立区、神奈川

県川崎市の処理施設でおのおのりサイクルを含め効率的に処理されており、自分たちが排出したごみが、単に廃棄物として処分されるだけではなく、可能な限り資源として活かされている様子を目の当たりにし、大変有意義な機会となった。

岩谷産業 イワタニ水素エネルギーフォーラム

2016年2月9日に大阪、2月26日に東京において、「第10回イワタニ水素エネルギー



イワタニ水素エネルギーフォーラム（岩谷産業提供）

フォーラム」を開催した。大阪・東京両会場とも「新たな水素エネルギー利用に向けて」をテーマに各分野から最新の報告・提言が行われた。民間企業・大学・行政・NPO等幅広い領域から大阪会場には628人、東京会場には875人が参加した。燃料電池車「MIRAI（ミライ）」が街中を走行し、商用水素ステーションが稼働を開始する中で、水素エネルギー社会への一層の関心の高まりを感じさせるフォーラムとなった。今後も、多くの方々との幅広い情報交換や交流を深めるべく、さらに充実した内容で本フォーラムの継続開催を目指していきたい。

兼松 eラーニングで学ぶ

「環境コンプライアンス」の実施

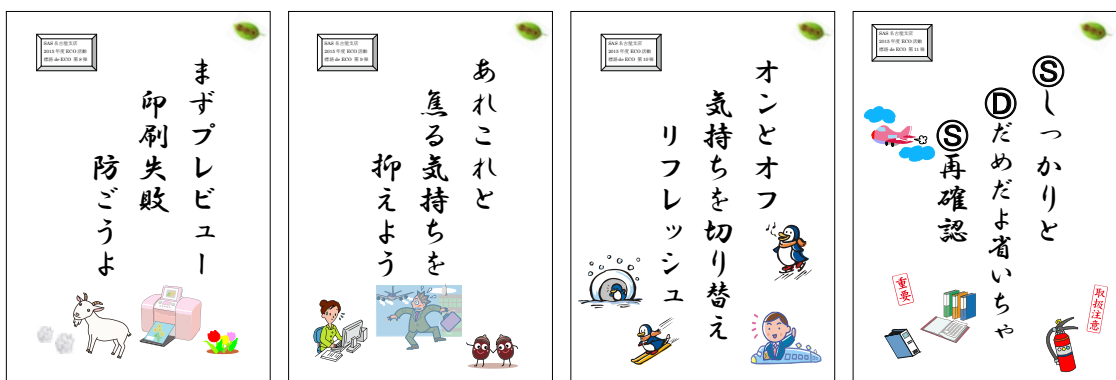
2015年6月の商社環境月間期間中、「環境コンプライアンス」の基礎知識をあらためて学ぶ機会として、新入社員とISO推進メンバーの約100人を対象にe-ラーニングを実施した。環境コンプライアンスは、企業人として欠かせない知識であり、受講者からは環境法令だけでなく、身近なエコや環境保全についても意識が高まった等の声が寄せられた。今後も社員の意識向上のために継続していく。

住友商事 エコ標語

住友商事グループの住商エアロシステム名古屋支店では、2013年からISO14001環境マネジメント活動の一環として、ユニークなエコ標語を作成し、社員全員によるオフィス環境の改善活動を推進している。職場で働く皆が自然と環境活動に取り組むことができるようユーモアとウィットの効いたエコ標語を四半期ごとにエコリーダーが勘案・掲示して、エコに対する意識向上に役立てている。エコ標語の策定は季節や時事を捉えてより身近に感じてもらえるよう工夫されており、その結果、年度末のアンケートにて意識の向上につながったという回答が支店全体の95%に達することができた。

三井物産 10周年を迎えた三井物産環境基金

三井物産の助成プログラムである三井物産環境基金は、2015年7月、10周年を迎えた。地球環境問題の解決と持続可能な社会の構築に貢献する国内外のNPO、大学等に助成を行い、これまでの実績は震災復興への貢献も含め全517件、54億円に上る。2015年度は記念企画として記念誌「10YEARS」を発行。基金の10年間の歩みを社内外へ紹介した他、



エコ標語（住友商事提供）

7月、当社社員を対象に「里山資本主義」などの著者であり地域エコノミストの藻谷浩介氏の講演会を開催し、里山をはじめとする自然環境保全の大切さ、また企業や個々人の立場でどのように環境に貢献できるかを考える機会を設けた。また10月には40人以上の研

究者などの出席を得て「研究助成成果表彰式」を実施。10年間で顕著な業績を挙げた五つの研究を表彰した。

3. 事業活動を通じた環境貢献

ユアサ商事

瑞浪市学園台スマートコミュニティ事業

岐阜県瑞浪市学園台で、スマートコミュニティを活用した地域活性化プロジェクトを推進。街区内での複数世帯（4-5世帯）で太陽光発電、太陽熱集パネル等のエネルギー設備や蓄電池、インフラを共有することで、再生可能エネルギーや未利用エネルギー等の利用の最適化を図るとともに、再生可能エネルギーを街区内消費するシステムを構築している。



10周年記念誌「10YEARS」



研究助成成果表彰式

三井物産環境基金（三井物産提供）